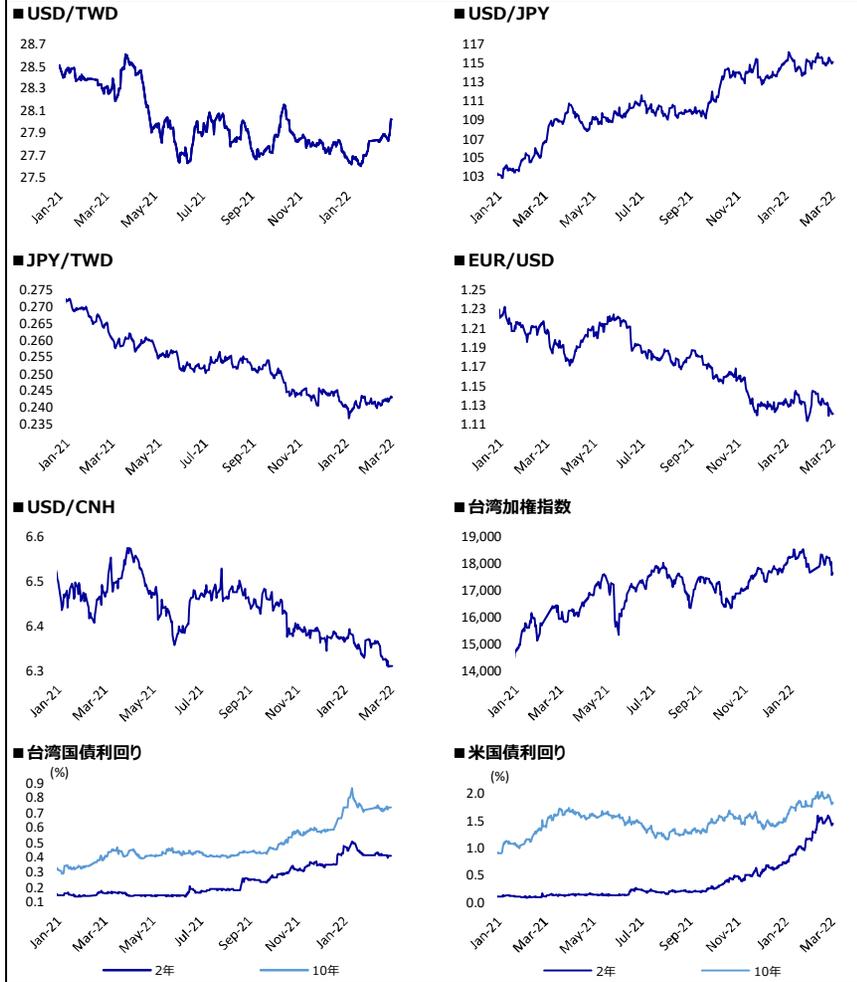


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルはウクライナ情勢の悪化を受け、リスク回避の動きから台湾ドル売り優勢に。週初2/21は27.880でオープン後、27.85付近で推移していたが米露首脳会談への期待からリスクオフの流れが和らぐと一時27.815をつけた。しかし、2/22にはプーチン大統領がウクライナ東部地域の独立の正式承認と同地域へのロシア軍の派遣を決定したことを受けリスクオフの流れに。台湾株が下落する一方、ドル台湾ドルは台北の外為市場ではシステムトラブルから取引が控えられたが、システム回復後は27.88付近で推移。2/23は月末のドル売りが上値を押さえ、横ばいで推移したが、2/24にはロシア軍がウクライナに侵攻するとリスクオフの流れが強まり、ドル台湾ドルも28台に。2/25も外国人投資家のリスク回避の台湾ドル売りが続き、一時28.074まで上昇。最終的には先週比0.5%ドル高台湾ドル安の28.021で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は1,665.4億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初2/21は114.87でオープン後、マクロン仏大統領が提案した米露首脳について、双方が合意したと報道からリスクオフムードが和らぎ一時115円台を回復したものの、米国休場の中、114円台後半で推移。しかし、プーチン大統領がウクライナ東部地域の独立承認とロシア軍の派遣を決定との報道を受け、リスク回避の円買いが強まり、ドル円は下落。2/22は前日の流れを受け、114円台半ばまで下落したが、その後は様子見が続いたものの、低下した米金利が上昇するにつれてドル円は115円台を回復。2/23は東京市場が休場の中、依然として地政学リスクが燃る中、115円を挟んでもみ合う展開に。2/24はロシア軍がウクライナに侵攻を開始するとリスク回避の動きが強まり、主要株式市場が全面安となる中、ドル円は一時114.41まで下落。その後はリスク回避でドルも買われ、下げ渋る中、米金利の低下幅が縮小すると115円台に回復。また、ロシアへの制裁のうち「SWIFT国際決済ネットワークからの除外」が見送られるとの報道からリスクオフムードが一旦和らぎ115円台半ばまで上昇した。2/25はロシアがウクライナとの協議に向けて代表団を送るといった報道にやや地政学リスクが後退。株式市場も大幅に反発を見せドル円も一時115.76円まで上昇。最終的には先週比0.5%ドル安円高の115.51で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.950-28.150
先週はウクライナ情勢の悪化で地政学リスクが高まり、外国人投資家の台湾ドル売りが強まった。月末であったことから輸出企業のドル売りも入り、上値をある程度押さえていたが、今週は月初であり、ウクライナ情勢のさらなる悪化した際には急激な台湾ドル安に警戒したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：114.50-115.90
引き続きウクライナ情勢に左右される展開となるであろう。一方、今週は重要な経済指標の発表が控えており、ウクライナ情勢に変化がなければ、3月のFOMCの方向を検討する材料として焦点となるであろう。

今週の予定

2/28 (MON)	台湾休場
3/1 (TUE)	米2月ISM製造業景況感指数、バイデン米大統領一般教書演説
3/2 (WED)	米2月ADP雇用統計
3/3 (THU)	米2月ISM非製造業景況感指数
3/4 (FRI)	米2月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。